

スト逃ヘタリ。
十九日野村ヨリ電報アリ、日米交渉ハ友好裡ニ語方進ミツツアリト。(外務大臣ハ成立ノ見込三分ナリト判断ス)
以上ノ大島及野村兩大使ヨリノ電報ヲ基礎トシテ内奏スルコトト致度。

五月二十九日第二十六回連絡懇談會

蘭印交渉、邊境談話、對米國交調整等ニ關スル件

一、外相首題ノ件ニ關シ説明ス。要旨左ノ如シ

(一) 蘭印交渉ニ就テ

先般英大使及和蘭公使ヲ呼ビ語ヲセルモ、其後返事ナシ。目下兩國ニ於テハ東京ノ商務官ヲ集メ日本ノ實際ノ所要量ヲ検討シツツアリ。外務省ニモ此ノ研究ニ出テ呉レト云ウタガ、出席ヲ斷リ、南洋局長ヲシテ單ニ額ヲ出サシテオイタ。

英ノ鎔金ニ依リ、日本ニ輸出スル物ノウチ特ニ「ゴム」ノ對獨再輸出ヲ防止セントスルニアラシク、獨ニハ重キヲ置キアラス。英大使ハ日本ノ所要量ヲ盛ニ質問スルカ、此ノ如キハ回答スヘ

キニアラスト應酬シ、又日本カ佛印、審カラ取ル景ニ依リ蘭印ヨリ輸出スル量ヲ加減スルノハ怪シカラン、和蘭ノ如キ小國カ日本ニ對シ、獨逸ニ送ラスコトヲ條件トスル書付ヲ取ルヘク申入レヲナスカ如キハ怪シカラン、ト述ヘタ所、英大使ハ「ビズネス」上ハ已ムヲ得ナイダラウ云ウタノデ、「ビズネス」上デモ不可ナリト強調セリ。

英大使ハ佛印カラ四萬屯モ取得スルト云フガ本當カト質問シタノデ、否一万五千屯シカ取ラス、獨逸トノ問題ハ獨逸ガ「ツイ」政府トノ話済ミデヤルコトデ日本ニ關係ナシ、ト云フタ所、英大使ハ之ハ初耳ナリト述ヘタリ。

蘭印交渉ハ右ノ如キ次第ナルヲ以テ芳澤ノ引揚ケハ近イウチニ

實行セネバナラスコトト思フ。

(二) 檀地談話及對米國交調整ニ就テ

野村ノ公報ハ未ダ到着セス。

民主主義ヲ堅ク守ル爲ニ戰フトカ英支ヲ援助スルトカ強調シアルハ氣ニ食ハヌガ、今ハカレコレ云ハヌ發リナリ。

強イ事ハ云ウテ居ラス。

米ガ困ツテ居ル模様モ見エル。

米國民ハ失望シテ居ルナラン。

從ツテ大統領ハ國民ノ模様ヲ見テカラハネカヘスカモ知レス、故ニ本談話ヲ以テ米ノ態度緩和セリト見ルハ適當ナラス。

帝國ノ修正案ニ就テハ米國ハ英支ニ渡リヲツケルト云フテ居ル

カラ多分英ニハ話シタ事ト思フ。「クレギー」ガ、日本ハ支那ト和平セバ其ノ力ヲ以テ南ニ出ルナラント英本國デハ考ヘテ居ル旨違ベタ所カラ判断スルト、英國ハ日本ノ修正案ヲ見タラ之ハ日本ノ「トリツク」ダト思フダラウ。

ニ以上ヲ以テ外相ノ説明ヲ終リ、懸談ニ入ル。

外相 政府ノ措置ヲ云々シ、或ハ國民ヲシテ去就ニ惑ハシムルカ如キ言論ヲ取締ル要アリ。又機密保持ニ關シテハ各官廳ニ於テ嚴重取締ル要アリ。本件内務大臣ニ於テ特ニ御盡力アリ度シ。

外相 叠ク同感ナリ。昨日ノ報知新聞ノ如キハ、米ハ須ク日本ト手ヲ握リ參戰スヘシナドト、武備貞一ノ言トシテ云ウ

テ居ル。適當ナラズト思フ。

此ノ際政府ノ態度ヲ明ニシタラ如何ト意見アリタルモ、米ノ意見モ近ク來ルコトデアリ暫ク見合ハスヲ可トスルコトニ意見一致ス

内相 言論取締ニ就テハ、相當ノ要人ガ自分ノ家ヲ訪レ「汪精衛ガ六月ニ來ルノハ怪シカラヌ」等政府ノ考ヘト反對ノ事ヲ云ウテ居ル。

元來政府ノ措置ニ反對ヲ表明スル等ハ適當ナラズ。

然ラハ今度ノ日米會談ハ誰カ種子ヲ播イタノカ。

外相 野村ノ處置トシテ「ハル」トアノ程度ニ話合ヲ進メタノデアルガ、其ノ程度ニ關シテハ自分ハ知ラス。

「モスコ」デ自分ガ米國ニ呼びカケタノテ野村ガヤツタ

ノデハナク、野村ハ其ノ以前カラヤツテ居ル。

野村ノ出發前自分ハ一筆書イテ渡シタガ、野村ノ今度ノ措置トハ反對ノコトヲ書イテアル。

無統制ノ外交ハ相済マスト思フ。今直グ責任ハ取ラヌガ他日自分ハ陛下ニ對シ責任ヲ取ル考ヘデアアル。

海相 米國ノ坊主ニヤラセタノデハナイノカ

外相 然ラズ

茶 井川ニ誰カ金ヲヤツタノカ

外相 俺デハナイ。誰カハ知ツテ居ルガ今ハ聞カンデ呉レ。

六月七日第二十八回連絡懇談會（註第二十七回ノ分ハ省略ス）

「クローチア」國承認及三國同盟加入並獨「ソ」開戦ニ關スル件

一、參謀總長缺席次長代理ス

二、外相「クローチア」國承認及三國同盟加入ノ件提議シ、統帥部之ニ同意ス

三、次テ外相獨「ソ」開戦ニ關シ、外務電第六三六、六三八、六三九號（六月三、四日大島大使ト「ヒツトラト」「リツベン」ト會談セル狀況報告）ニ就キ説明ス（上記電報參照）

右説明後外相左記要旨ノ所見ヲ述フ

大島ニ對シ反對スルノデハナイガ、「ヒツトラト」ハ共產主義ヲタタキツブスノガ信念デアルト云ウテ居ルガ、ソレデ戰爭ス